

手指消毒についての注意事項

1. 消毒薬の成分と効能について

分類	成分	特長	粘膜への使用	病原性微生物			商品名
				細菌	真菌	ウイルス	
低水準消毒薬	塩化ベンザルコニウム	本来は非生体用であるが粘膜に使われることもある	○	△	△	×	オスバン液、ザルコニン液
	塩化ベンゼトニウム		○	△	△	×	ハイアミン
	グルコン酸クロロヘキシジン	粘膜適用禁忌、長時間効果を示す	×	△	△	×	ヒビテン液
	塩酸アルキルジアミノエチルグリシン	殺菌力は比較的弱いが多数の微生物に有効	△	△	△	×	テゴ-51
	塩酸アルキルポリアミノエチルグリシン		△	△	△	×	
中水準消毒薬	エタノール	強力な殺菌力、手指や器具など	×	○	○	○	消毒用エタノール
	イソプロパノール	オールマイティーだが侵襲が強い	×	○	○	○	70%イソプロパノール
	イソプロパノール+エタノール	殺菌力もあり安価、侵襲が強い	×	○	○	○	消毒用エタプラス
	クロロヘキシジン+エタノール	手指限定での速乾性擦り込み式	×	○	○	○	ヒビソフ、ヒビテンアルコール
	塩化ベンザルコニウム+エタノール	消毒薬として用いる	×	○	○	○	ウエルパス、リナパス
	ヨードチンキ	殺菌力が強く幅広い種類に効果的だが着色してしまう	×	○	○	○	
	ポピドンヨード		○	○	○	イノジンスクラブ、ネオヨジンスクラブ(洗浄剤入)	

○:適している △:状況など、場合により適している ×:適していない

殺菌力や対象となる微生物の幅の広さで言ったらアルコールとポピドンヨードが抜群ですが、アルコール含有の製品は刺激性が強く、粘膜への使用や対象物を変性させてしまうことがあります。一方、粘膜にも使用できて刺激の少ないポピドンヨードは着色してしまうという欠点を持っています。表からわかるようにウイルスに効果があるのはエタノールをはじめとした中水準消毒薬です。

2. 消毒薬を使う、その前に洗淨が基本！

消毒薬を使うと衛生環境はよくなります。

しかし、消毒薬を使う前には洗淨する事が原則です。汚れたままでは、油やよごれなどによってせっかくの消毒効果も半減してしまいます。しっかり洗淨して消毒薬の効果を十分に発揮させましょう。また、洗った後に手をふくタオルが汚れているのも忘れがちな点とされています。「使い捨てタオルを使いましょう」、とは言いませんが、あまり汚れたタオルを使うのはよくありません。

基本的に洗淨が大切で、その上で使う方が便利なのは消毒薬入りのガーゼなどの利用ですが、しっかりと流水で洗淨していればあえて消毒の必要がないともいえます。消毒薬成分が含まれたガーゼでちょっとだけ清拭するのとタップリの流水で時間をかけて丁寧に洗淨する事は、どちらがいいかという微妙なところですが生体への低刺激性と細菌の除去で考えたら流水での洗淨の方がいいかもしれません。ここで注意することは使用水の残塩が0.1以上あることです。日常点検で必ず確認しましょう。

3. おすすめの逸品「速乾性手指消毒薬」

手洗いの方法は、通常は普通の石けんで30~60秒間、手の全体を丁寧にこする事で充分ですが、なかなかその時間がかけていられないこともあります。そんな時に手軽に消毒できるのが速乾性手指消毒薬と呼ばれる製品です。手などにスプレーした後、よくこすり合わせて全体に広げながらすぐに蒸発させて使う製品のことで、さっと消毒をする事から考えると一番のおすすめです。

スプレー式になっているので洗面台にあれば手洗いと同時にできるので便利です。

ただ速乾性の消毒薬といえども弱点はあります。これらの製品は、すぐに乾く為にアルコールが入っているのですが、逆にアルコールに敏感な人や使うところにキズがある時には向いていません。心当たりの人は利用の際に注意しましょう。アルコール過敏症や目に見える汚れがある人の場合は、流水と石けんによる手洗いを行ってください。

★速乾性手指消毒薬を注ぎ足して使ってもよいか？

アルコールが主成分である手指消毒薬は抗菌効果が高いため、注ぎ足して使用しても良い。

ただ、使用する容器は、定期的に洗浄・乾燥を行う。

また、効力の緩徐な消毒薬・液体石けんでは、注ぎ足しで微生物汚染が起こりうるので注意が必要です。(例：塩化ベンザルコニウム、クロルヘキシジンなど)

★同じ種類の消毒薬を使い続けて、耐性菌は発生しませんか？

アルコール耐性の細菌は存在しません。(芽胞を除く！)

塩化ベンザルコニウム、クロルヘキシジンなどに耐性を示す細菌はあります。

★消毒用エタノール<一般用>

注射部位の消毒でエタノールに過敏症を示す患者にはどのような消毒剤を使用したらよいか？

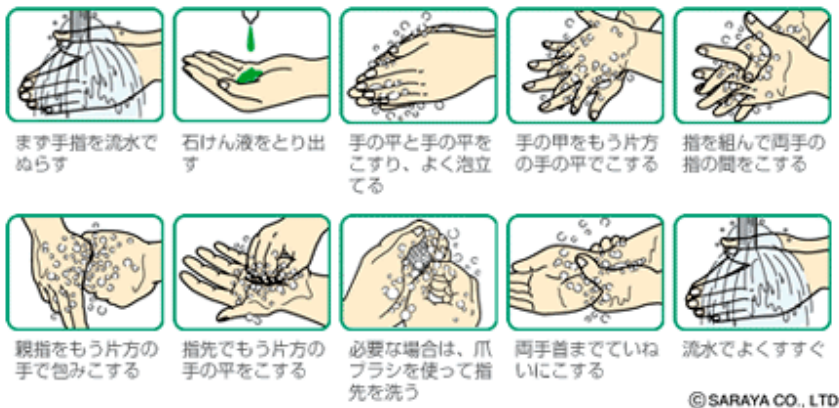
エタノールにアレルギー反応を示す例に、イソプロパノールでは、ほとんどの例でアレルギー反応を示さないとする報告もありますので、まずイソプロパノールが適用となります。その他下記の皮膚消毒に適応のある消毒剤が使用可能です。

[クロルヘキシジングルコン酸塩 0.1~0.5%水溶液、ベンザルコニウム塩化物、ベンゼトニウム塩化物 0.1~0.2%水溶液、両性界面活性剤 0.1~0.2%水溶液]

一般に手指消毒の場合でエタノールに過敏症を示す場合は洗浄剤(石けん等)を使用した流水での手洗いで十分だと考えられます。

どうしてもという場合ウエルパス・リナパスよりヒビソフトの方が同じアルコールを含んでいても手にやさしいと言われています。

正しい手洗いの方法の図



<手指消毒方法>手指消毒用アルコールは、しっかり擦り込みましょう

